

## 前置胎盤合併症例の妊娠中期中絶、流産時のアウトカムの検討

### 1. 研究の対象

2011年1月から2018年9月までの間に自然流産もしくは希望中絶で妊娠14週から24週の期間に当院で分娩した全患者。

### 2. 研究目的・方法

前置胎盤は子宮の出口に胎盤が付着することにより、分娩前・分娩時に致死的な出血を起こしうる病態であり、母児ともに致命的な状態になり得ます。子宮の出口を塞ぐように胎盤が存在するので経膈分娩ができず妊娠満期での分娩では帝王切開術を行うことが日本産婦人科ガイドラインでも示されています。しかし妊娠中期の中絶や流産では児を考慮する必要がなく、また分娩方法に対する明らかな指針は無いので一般的に前置胎盤であっても妊娠中期には経膈分娩を選択することがあります。しかしながら妊娠中期であっても大出血を来し緊急帝王切開を要したり輸血が必要になることがあります。

今回の研究の目的は前置胎盤合併妊娠の中期分娩時の分娩方法やそのアウトカムを前置胎盤を合併されていない方とも比較検討することで大出血を起こしうるリスクを抽出することです。

それにより本研究の意義として、前置胎盤症例合併妊娠の中期分娩の安全性を高めることにあります。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、分娩記録、カルテ番号 等

試料：なし

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：  
防衛医科大学校 産科婦人科学講座

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1511（内線 2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：講師 宮本守員